

■受付日時：2月 9日（日）17時13分

■内容区分：

■氏 名：木村 俊二郎

■コメント：

2014年2月9日

淀川水系流域委員会

専門委員会委員長並びに委員各位 殿

地域委員会委員長並びに委員各位 殿

淀川水系流域委員会での真摯な討議をお願いしたい。

リバープロジェクト 木村俊二郎

平成25年台風18号によって淀川流域各地に洪水をもたらしたが、その降雨量は淀川河川整備計画の計画降雨量とほぼ同じとなっている。河川整備計画策定の基礎となった降雨が実際に発生したと言うことは、その降雨実績に従って河川整備計画を見直すことができる極めて稀な機会を得たことになる。

淀川水系流域委員会はこの機会を逃すことなく河川整備計画の詳細を再検討していただきたい。

下記に検討すべき事項を思いついたままに書くが、委員各位にあたっても今回の洪水についてそれぞれ問題点をお持ちのことと思うので、それらを明らかにし討議を重ねていただきたい。

結果論であっても理想的な流水の制御や操作の方法はどのようなものなのかも併せて提示していただければ今後の参考になることと思う。

・計画規模の降水があつたにもかかわらず流出量は1200m³/sec少ない。それは何故なのか。流域の保水力が増大したのか。当初の流出計算が過大であつたのか。飽和雨量はいくらに設定したのか。

・瀬田川洗堰の全閉操作は正しかったのか。全閉操作によって琵琶湖の水位はどのように変化したのか。その結果琵琶湖周辺に被害は無かったのか。今後の全閉操作の基準に変更はないのか。

・天ヶ瀬ダムへの流入量が増加し始めた段階で予備放流をするべきではなかったのか。天ヶ瀬ダムの予備放流の操作規則は正しいのか。その規則を運用する姿勢に問題はなかったのか。クレストゲートも開いての放流の結果、観月橋付近を破堤の危機に直面させたのではないのか。

・桂川・宇治川・木津川、三川のピーク流量がほぼ同じ時間帯に集中した結果、三川合流地点での水位が上昇したと言われている。その結果、三川の流速が落ち、「水は流れていな

かった」という報告もある。三川合流地点からのバックウォーターはどこまで伸びたのか、その影響はどこまであったのか。

・今回の洪水による堤防各所の漏水が確認されているが、淀川全川の漏水の位置と数はどうだったのか。また月の輪工など洪水対策を実施した場所はどこだったのか。その付近の堤防の内部構造はどうなっているのか。破堤の危険性は無かったのか。

・淀川河川公園の公園内施設は洪水が来る前に総て堤内へ移動できたのか。便所、バックネット等の施設の移動状況と今後の対策はどうなっているのか。公園緑地財団に変わったことによる公園管理の手落ちは無かったのか。

・洪水からの復旧では、どこにどれだけの予算を投入しその結果はどうなっているか。特に高水敷の河川公園内は現状復帰に留めることなく河川公園基本計画に沿ったものになっているのか。

・住民のサラリーマン化と高齢化でその機能が危ぶまれている水防団は今回の洪水でどのような動きをしたのか。水防団組織と機能に問題は無かったのか。

以上思いついただけでもこのようにあるが、委員各位もそれぞれに問題点をお持ちことと思う。このような問題点を明らかにしそれぞれ検討し、討議することが現淀川水系流域委員会の任務ではないのか。

末梢に議論に終始し、目前に起こった河川整備計画規模の降雨による影響を検討する折角の機会を逃すようなことがあるならば、委員各位の品格も疑われ、また淀川水系流域委員会そのものの存在も問われることになる。淀川水系流域委員会での真摯な議論を望みたい。

以 上
